

令和 6 年度第 2 回（第15回） 大阪市大規模事業リスク管理会議

報告

- ・ **2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）会場建設費**
 - ・ 資料 1 – 1 2025年大阪・関西万博推進本部会議 第12回会議
資料1 会場建設費：執行状況について
 - ・ 資料 1 – 2 予備費の執行にあたって（確認結果）
 - ・ 資料 1 – 3 進捗状況等について

2024/12/2 会場建設費：執行状況について

公益社団法人 **2025**年日本国際博覧会協会

博覧会協会における会場建設費の執行額の精査結果について

- 2023年11月、会場建設費（工事費2,220億円、**予備費130億円**）総額2,350億円が必要と算定。
- 今般、2,350億円のうち①**当時予見できなかった事象への対応**として「**約87億円**」が新たに見込まれる一方、執行にあたっては、物価上昇緩和、コスト削減、現地再精査等の変更を考慮すると、②**隙間は現状「約25億円」**あることから、**現時点での予備費執行は「約62億円」が見込まれ**、これを執行しようとするもの。
- なお、**総額2,350億円に変更はなく、予備費130億円の範囲内**で対応するもの。

(2023年10月時点)

(予算) 最大2,350億円

【予備費】130億円

【工事】2,220億円

・大工区
・主要施設
・土木工区
・インフラ設備
・交通施設
・委託関係 など

① 当時予見できなかった事象への対応 **+87億円**

- ・公式参加国出展形態変更への対応 +57億円
- ・メタンガス対策(ハード面の安全対策) +30億円

P3、4参照

② 現時点の隙間 **▲25億円**

- ・物価上昇の緩和 ▲65億円
- ・コスト縮小・削減 ▲51億円
- ・現地再精査・各種進捗等変更 +91億円

いずれも11月末時点の見込であり、
今後の執行によって変動もあり得る

P5、6参照

(2024年11月時点)

(予算) 最大2,350億円

予備費執行となり得るのは
「約87億円」

現時点の予備費執行は
隙間が「約25億円」のため
「約62億円」が見込まれる

今後の執行によって変動もあり得る

①当時予見できなかった事象への対応 1 （約 8 7 億円執行）

● 公式参加国出展形態変更への対応 約 5 7 億円

1. タイプX 9 棟の有効活用 約**32**億円 【24.9理事会承認済】
2. 空地・空区画における休憩所等※の整備 約**25**億円 【今回、必要額を精査】

※【24.9理事会説明内容】

公式参加者の参加形態に応じて新たに生じた区画については、人工芝舗装のうえ暑熱対策としての簡易テントや冷風設備を設置するなど、子ども向け装飾・遊び場も加味した休憩所等(附帯施設含む)や来場者用サービス・展示施設の整備を進めていく。

整備の全体像は未確定であるものの、整備費としては約**20～30**億円(精査中)を考えており、これを会場建設費で負担する。

休憩所



写真・イラストは、現時点のイメージ

	面積	協会での整備予定・活用内容
空地 1	約900㎡	休憩所(人工芝整備、テント、ベンチ、テーブル等)
空地 2	約900㎡	休憩所(人工芝整備、テント、ベンチ、テーブル等)
空地 3	約3500㎡	休憩所(人工芝整備、テント、ベンチ、テーブル、駐車場等)
空地 4	約900㎡	休憩所及び付帯施設(人工芝整備、テント、ベンチ、テーブル、荷捌き場等)
空地 5	約400㎡	物流施設(アスファルト舗装、荷捌き場等)
空区画(複数)	約300㎡/区画	未来技術展示体験エリア(ロボット、空飛ぶクルマ体験) 来場者用サービス施設エリア(免税カウンター、パビリオン等当日予約端末所) ミュクミュク展示エリア(フォトスポット・展示・事務局等) 会場スタッフ用休憩エリア(暑熱対策含む) <24.11末時点の計画であり、今後変更の可能性有>

①当時予見できなかった事象への対応2 (約87億円執行)

●メタンガス対策（ハード面の安全対策※） 約30億円

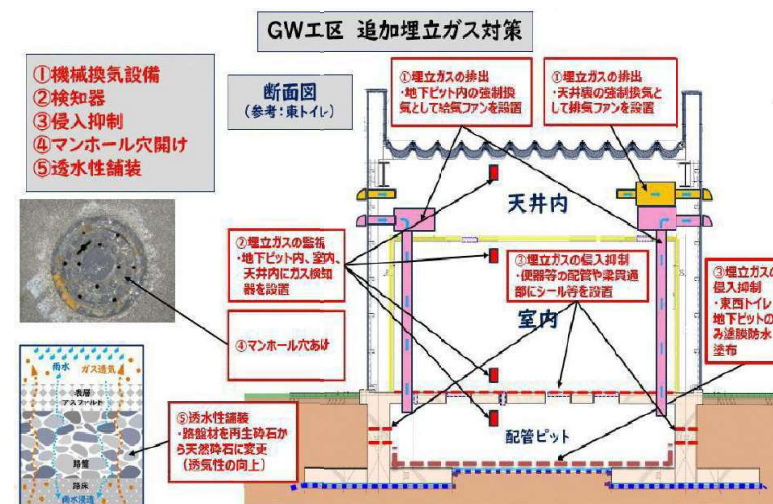
GW工区は約**24**億円、PW工区は約**6**億円の合計 **約30億円** 【今回、必要額を精査】

※【24.9月理事会説明内容】

●**GW工区**の施設は、2024年6月24日に公表した「会期中の安全対策」に基づき、①機械換気設備、②検知器、③侵入抑制、④マンホール穴開け、⑤透水性舗装、を基本として、**施設特性に応じた対策**を実施。

●**PW工区**は、低濃度ガスが検知された地下鉄工事上部エリア、グリーンワールド工区近接エリアで、ガス濃度測定を重点的に実施し、その結果を踏まえて**必要な対策を実施**。

●**所要費用 会場建設費（主に設備対応） 約32億円**



②物価上昇の緩和について（▲65億円）

①23年10月時点（予算増額時）

日本建設連合会の資料（資材:21.1～23.2上昇推移・労務単価：2年の上昇推移）により、**資材費「13.4%/年」** **労務費「4.8%/年」**が、当初1,850予算算定時(20.12)から継続することを前提に増額分を積算したもの。

➤ **527億円**

②24年10月時点（執行額精査時）

同資料から23.10～24.10の上昇推移比較をみると、資材費は「4.5%pt/年増」となっており上昇傾向にある。また、労務費は23.10時点に比べて上昇幅は拡大している。上記を踏まえ、**資材費は「4.5%/年」、労務費「5.9%/年」**として将来の物価影響額を試算するため、24.10以降の工事費を補正積算したもの。

（※23.10～24.9については、入札等執行減等で反映されている（次頁））

➤ **462億円（資材費「▲74億円」 労務費「+9億円」）**

③補正結果

この結果、①**527億円**に対し②**462億円**となり、
差額**「▲65億円」**の補正額を算定。

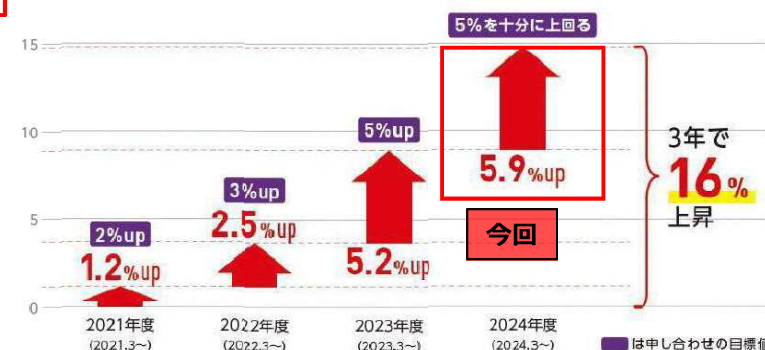


<日本建設業連合会HPより>



今回：4.5%pt増(平均)

図1 公共工事設計労務単価（平均）の引上率



<日本建設業連合会HPより>

②コスト縮小・削減 及び現地再精査・各種進捗等変更まとめ（▲25億円）

物価上昇緩和（再掲：P5参照） ▲65.0億円

入札等執行減（23年10月～24年9月） ▲14.6億円

発注等の見直し（協賛含む） ▲24.7億円

セキュリティ資機材の必要性の見直し ▲16.4億円

会場内警備カメラ等の発注方法見直し ▲5.1億円

若手建築家施設の棟数や構造等の仕様見直し ▲1.8億円

若手建築家施設等の協賛獲得 ▲1.4億円

施工時の仕様等見直し ▲11.8億円

交通ターミナルの施工内容・部材等見直し ▲4.9億円

GW工区の施設の構造や設備等の仕様見直し ▲3.4億円

迎賓館の内装等仕様見直し ▲1.6億円

若手建築家施設の規模や内装等の仕様見直し ▲1.2億円

情報インフラ整備の部材等の見直し ▲0.7億円

コスト縮小・削減：▲116億円

現地再精査等による数量の変更 40.4億円

大工区・主要施設
・舗装・照明の仕様の変更
・工事用仮設駐車場や仮設道路整備等の追加
・原状復旧のための解体撤去工事の増 等 23.9億円

交通施設
・警察・消防協議に伴う安全対策措置 等 12.1億円

基盤整備（土木）・インフラ整備
・インフラ管路延長増 等 4.4億円

公式参加国の準備進捗等に伴う変更 50.8億円

公式参加国の工事進捗等に伴う変更 30.3億円

来場者輸送、施設配置等の具体化に伴う変更 17.0億円

協賛辞退等による追加対応 3.5億円

現地再精査・各種進捗等変更：
+91億円（一部、今後計画含む）

差引増減「▲25億円」

<今後の執行状況により変動の可能性有>

今後の予備費について（残予算：68億円）

- ◆ 予備費については、「全体工事費2,220億円× 予備費率6% ÷ 130億円」で計上。
- ◆ 130億円のうち62億円を使った場合、残予算「**68億円**」での対応の可否を検証。

検証内容

- 予備費については、会場建設における予期せぬ事態（風水害等自然災害時の対応や想定を大幅に超えた価格上昇など）が発生した場合にも、即時対応できるよう財源を確保したもの。
- 足元の万博会場のハード整備状況については、全体の工事進捗率は約 7 割を超えており、会場建設費の契約率も約 9 割となっていることから、ピークアウトしている状況である。
- 会場建設費増額時(2023.11)には、整備事業終了までを見据えて予備費130億円を計上していたところ、以後1年が経過していることもあり、建設事業としての不確定要素(リスク)は一定低減していると考えられる。
- 以上のことから、今後の不測事態への対応として予備費68億円とするのは、専門事業者の意見を踏まえて必要十分と考えており、会場建設費2,350億円の範囲内で対応していく。

会場建設費の執行状況について（2024年10月末時点）

（単位：億円）

執 行 項 目	契約済		今後の予定		執行予定額
	金額	主な内容	小計	主な内容	
大工区	1,142				
PW北東工区	330	・大屋根（リング） ・パビリオンB、C ・管理施設、ゲート施設等の整備 ・メタン対策 ・附帯整備 （各種サイン・舗装・休憩所等）	236	・会場安全対策等の軽微変更工事 ・会場附帯施設整備 ・空区画等利活用整備 ・メタン対策 ・施設等維持補修 ・リユース対応 ・会場基盤撤去工事 他	1,378
PW南東工区	277				
PW西工区	311				
GW工区	165				
静けさの森工区等	30				
会場附帯施設等整備	13				
会場施設等維持補修業務	16				
主要施設	277				
大催事場	91	・各施設整備 ・サライスタジオ、休憩所等(20棟)	18	・各施設の安全対策等の軽微変更工事 ・メタン対策 他	295
小催事場	47				
迎賓館	38				
テーマ館	53				
若手建築家施設	48				
土木工区	110	・園路基盤整備、水道引込 ・雨水管、污水管、給水管、 熱供給管、電氣管路、通信管路	▲ 1	・水道分担金還付 他	109
インフラ設備 （電気・熱供給、通信、警備設備 等）	237	・電気(引込含)・熱供給・通信設備 ・水質改善設備 ・警備設備等	20	・各施設等の附帯設備整備 ・各工事工程に伴う変更対応 ・メタン対策 他	257
交通施設	152	・会場外駐車場等整備、付帯設備 ・桜島駅乗降場整備 ・万博アクセスルート整備	27	・会場外交通施設、 施設関係設備、周辺整備 ・メタン対策 他	179
環境評価、委託関係	58	・基本設計業務 ・環境影響評価業務 ・プロジェクトマネジメント、コストマネジメント業務	6	・現契約案件の継続追加業務 他 （プロジェクトマネジメント、コストマネジメント等）	64
合計	① 1,976		306		② 2,220
					予備費※ 130
				総 計	2,350

※予備費執行となり得るのは「約87億円」。現時点の予備費執行は、隙間が約25億円のため「約62億円」の見込。

※「今後の予定」の支出の内訳については、現時点での計画額であり今後の執行過程において変更する場合があります。
※一部、内訳端数調整有

■2,220億円の執行率： 87.9% （（①－（タイプX、空地整備・メタン対策執行分））/②）

予備費の執行にあたって(確認結果)

資料 1 - 2

2024年12月6日
万博推進局

【経過について】

- 予備費については、昨年の増額時に、会場建設における台風などの自然災害時における緊急補修対応や、想定以上の物価上昇が生じた際の対応などの予見できないリスクに対応するために計上されたことを受け、府市としては、予備費を執行する場合には事前に協議するよう申し入れていたもの
- これに関し、先日の2025年大阪・関西万博推進本部において、会場建設費の執行状況の中で、予備費の一部執行についても説明があったことから、この間、その内容や根拠等を確認していた

【会場建設費(2,220億円)の執行状況と予備費(130億円)の一部執行について】

- 会場建設費については、できる限りコスト縮減を図るとともに、追加変更の項目も現地再精査による数量の変更や公式参加国の準備進捗に伴うものであり、適切な執行がなされている
- 予備費の一部執行(62億円)の中身については、海外パビリオンの出展形態の変更への対応や、会場の安全をより確保するためのメタンガス対策であり、会場建設に必要な対応である
- また、将来の物価変動の試算についても、府市の公共事業における上昇率と同程度で算定されており妥当なものであった
- さらに、今後の予備費の執行については、会場建設費の契約率が約9割に達している現状において、半分以上の68億円が確保されており、自然災害への対応等を考慮しても、2,350億円に収まるということであった
- こうしたことから、今回の予備費の一部執行については、やむを得ないものと判断する

【予備費を含む今後の会場建設費の執行について(博覧会協会への要請)】

- 引き続き、コスト縮減に努めるとともに、国の予算執行監視委員会や府市等のチェックも受けつつ、CFO(最高財務責任者)のもと厳格に執行管理を行い、会場建設費は2,350億円に収め、昨年の増額を最後にすること
- 今後、新たな予見できない事象により、予備費の追加執行が見込まれる場合は、事前協議を行うこと

物価上昇の緩和について

【資材価格・労務費の合成上昇率】

(今回の執行額の精査における協会の上昇率)

項目	上昇率(%/年) (23.10~24.10)
資材	4.5%
労務	5.9%

昨年増額時と同様に、
事業費の構成を資材6割、労務3割、その他1割として加重平均し上昇率を算出
⇒合成上昇率 4.5%/年 (参考:昨年度上昇率 9%/年)

【事例1】市営住宅について、契約年度が異なる同種の建設工事を比較

(RC造・9階建ての比較 上昇率)

契約年度	延べ床面積あたりの工事費 (千円/m ²)
2023年度	202
2024年度	213

⇒ 上昇率 5.4%/年

(RC造・13~14階建て、延床面積10,000㎡超の比較 上昇率)

契約年度	延べ床面積あたりの工事費 (千円/m ²)
2023年度	181
2024年度	187

⇒ 上昇率 3.3%/年

【事例2】警察庁舎について、契約年度が異なる同種の建設工事を比較

契約年度	延べ床面積あたりの工事費 (千円/m ²)
2023年度	373
2024年度	389

⇒ 上昇率 4.3%/年

＜参考＞
昨年度の大阪府・市の事例の上昇率は、
7%/年～10%/年

⇒大阪府・市の事例でも上昇率:3.3%/年～5.4%/年となり、協会と同様に緩和傾向となっている

昨年度の増額時（2023年10月）と2024年10月の項目ごとの執行予定額との比較

（単位：億円）

執行項目	2023.10月	2024.10月	増減	主な増減理由
大工区				
PW北東工区				・物価上昇緩和による減、入札等執行減
PW南東工区				・GW工区の施設の構造や設備等の仕様見直しによる減
PW西工区				・舗装・照明の仕様の変更による増
GW工区				・原状復旧のための解体工事の増
静けさの森工区等				・公式参加国の工事進捗等に伴う変更
会場附帯施設等整備				➡公式参加国の工事促進のための対応による増
会場施設等維持補修業務				・公式参加国出展形態変更への対応による増
				・メタン対策の追加
	1,284	1,378	94	・基盤インフラの撤去工事を大工区予算に変更
主要施設				
大催事場				・物価上昇緩和による減、入札等執行減
小催事場				・若手建築家施設の棟数や構造等の仕様見直しによる減
迎賓館				・迎賓館の内装等仕様見直しによる減
テーマ館				・協賛辞退等による追加対応
若手建築家施設				・メタン対策の追加
	295	295	0	
土木工区				
	132	109	▲ 23	・物価上昇緩和による減
				・基盤インフラの撤去工事を大工区予算に変更
				・インフラ管路延長増
				・盛土数量の増
インフラ設備 （電気・熱供給、通信、警備施設等）				
	278	257	▲ 21	・物価上昇緩和による減、入札等執行減
				・セキュリティ資機材の必要性の見直しによる減
				・会場内警備カメラ等の発注方法見直しによる減
				・公式参加国の工事進捗等に伴う変更
				➡電気等の需要増への対応
				・協賛辞退等による追加対応
				・メタン対策の追加
交通施設				
	174	179	5	・物価上昇緩和による減、入札等執行減
				・交通ターミナルの施工内容・部材等見直しによる減
				・警察・消防協議に伴う安全対策措置による増
				・来場者輸送、施設配置等の具体化に伴う変更
				➡輸送計画や施設配置方針等の変更による舗装・設備・施設の整備による変更増
				・メタン対策の追加
環境評価、委託関係				
	57	64	7	・会場全体の工程調整による増加
合計	2,220	2,282	62	

<参考> 12月2日協会資料8ページ 会場建設費の執行状況について(2024年10月末時点)

(単位：億円)

執 行 項 目	契約済		今後の予定		執行予定額
	金額	主な内容	小計	主な内容	
大工区	1,142		236		1,378
PW北東工区	330	・大屋根（リング） ・パビリオンB、C ・管理施設、ゲート施設等の整備 ・メタン対策 ・附帯整備 （各種サイン・舗装・休憩所等）		・会場安全対策等の軽微変更工事 ・会場附帯施設整備 ・空区画等利活用整備 ・メタン対策 ・施設等維持補修 ・リユース対応 ・会場基盤撤去工事 他	
PW南東工区	277				
PW西工区	311				
GW工区	165				
静けさの森工区等	30				
会場附帯施設等整備	13				
会場施設等維持補修業務	16				
主要施設	277		18		295
大催事場	91	・各施設整備 ・サテライトスタジオ、休憩所等(20棟)		・各施設の安全対策等の軽微変更工事 ・メタン対策 他	
小催事場	47				
迎賓館	38				
テーマ館	53				
若手建築家施設	48				
土木工区	110	・園路基盤整備、水道引込 ・雨水管、污水管、給水管、 熱供給管、電気管路、通信管路	▲ 1	・水道分担金還付 他	109
インフラ設備 （電気・熱供給、通信、警備設備 等）	237	・電気(引込含)・熱供給・通信設備 ・水質改善設備 ・警備設備等	20	・各施設等の附帯設備整備 ・各工事工程に伴う変更対応 ・メタン対策 他	257
交通施設	152	・会場外駐車場等整備、付帯設備 ・桜島駅乗降場整備 ・万博アクセスルート整備	27	・会場外交通施設、 施設関係設備、周辺整備 ・メタン対策 他	179
環境評価、委託関係	58	・基本設計業務 ・環境影響評価業務 ・プロジェクトマネジメント、コストマネジメント業務	6	・現契約案件の継続追加業務 他 （プロジェクトマネジメント、コストマネジメント等）	64
合計	① 1,976		306		② 2,220
					予備費※ 130
				総 計	2,350

※「今後の予定」の支出の内訳については、現時点での計画額であり今後の執行過程において変更する場合があります。

※一部、内訳端数調整有

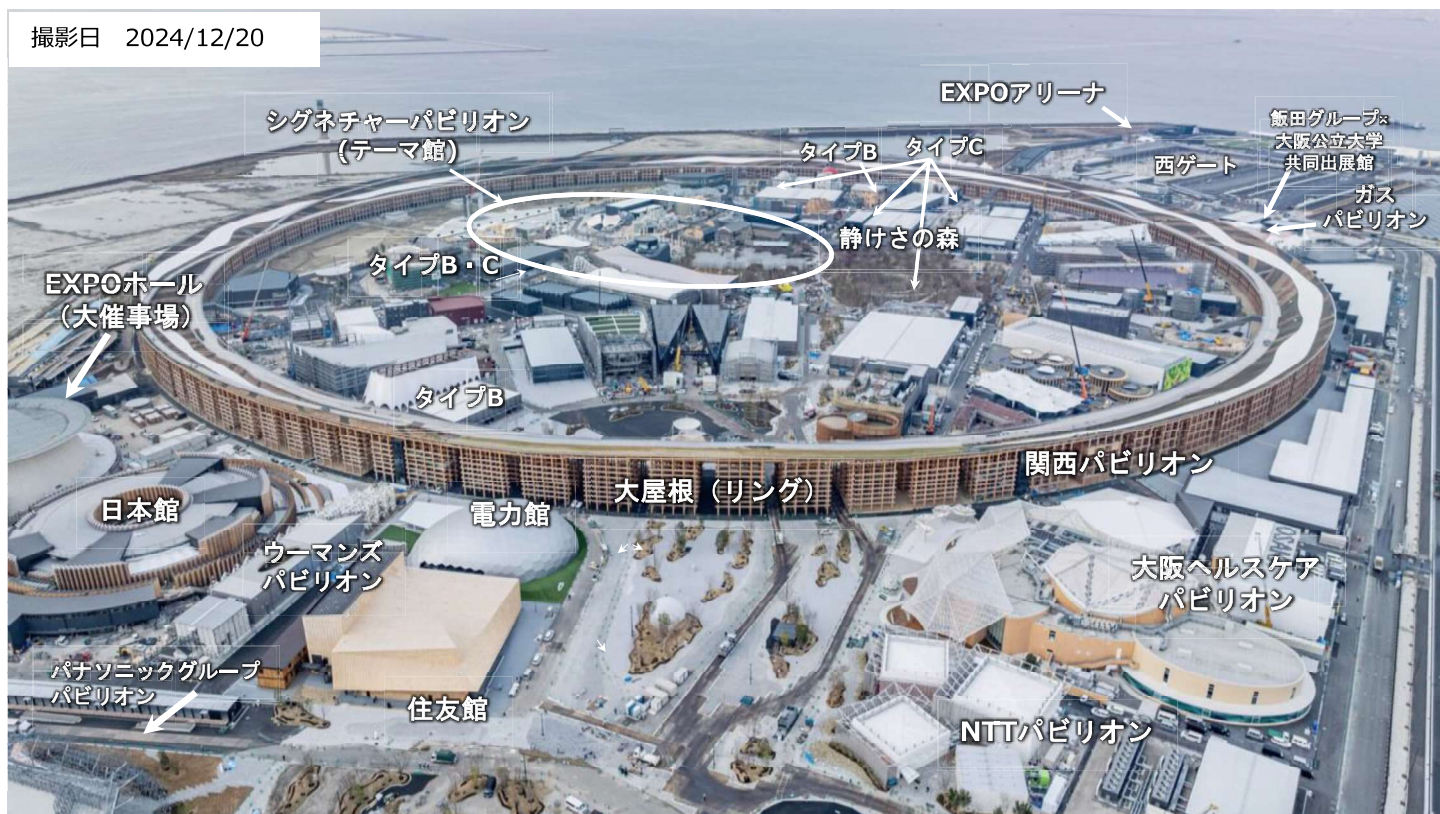
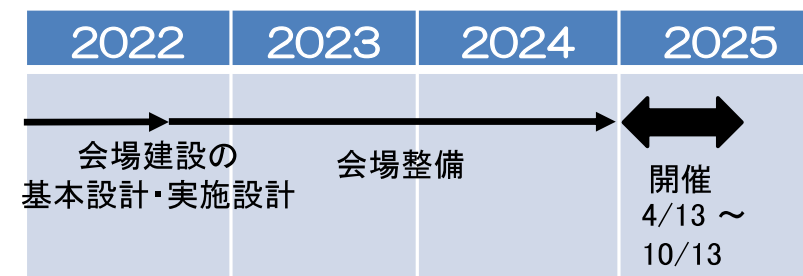
※「今後の予定」の支出の内訳については、現時点での計画額であり今後の執行過程において変更する場合があります。
※一部、内訳端数調整有

※予備費執行となり得るのは「約87億円」。現時点の予備費執行は、隙間が約25億円のため「約62億円」の見込。

■2,220億円の執行率： 87.9% （（①－(タイプX、空地整備・メタンガス対策執行分)）/②）

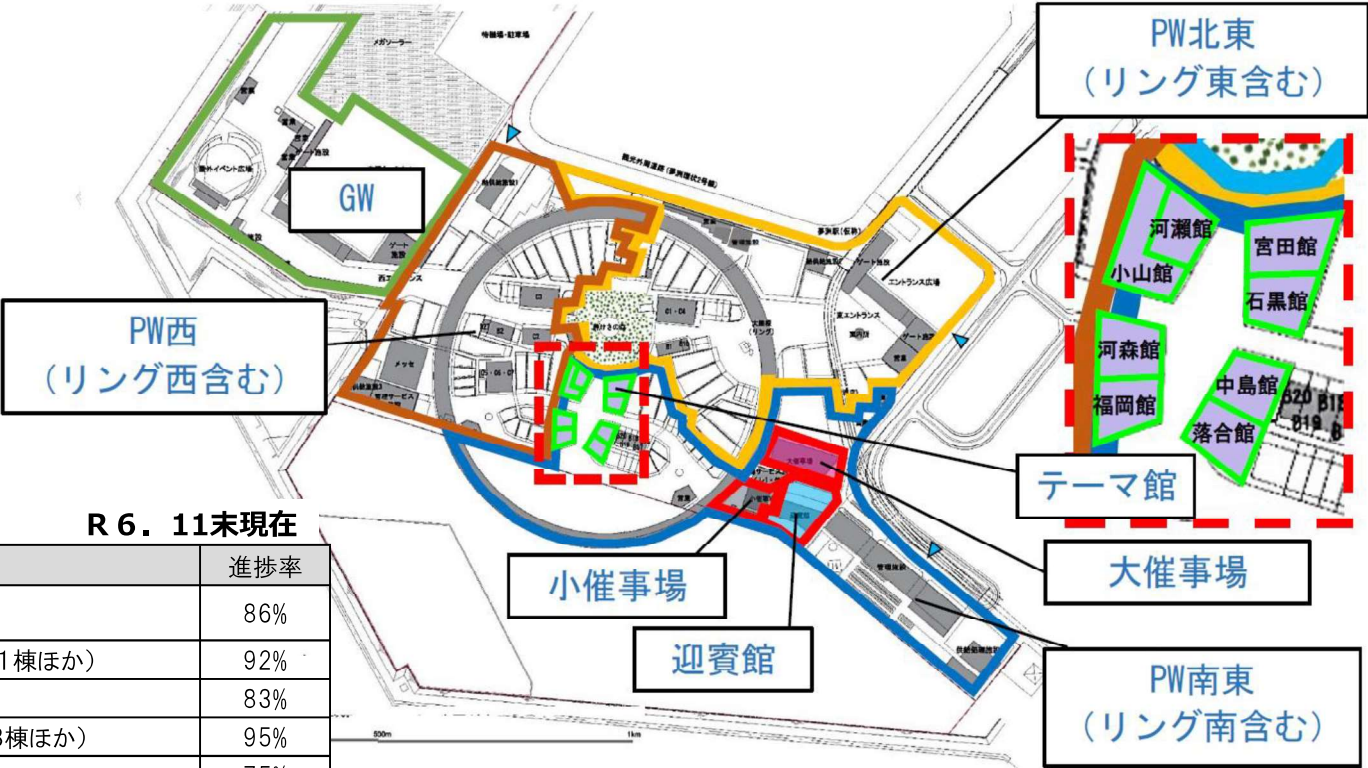
■ 会場整備の進捗状況

- 博覧会協会による会場整備（催事施設、供給施設、ランドスケープ、テーマ館、大屋根リング等）について、開催に向けた整備が進んでおり、順次建物が完成しているところ。
 - パビリオンタイプB、C、Xについても、建物完成後、引き渡しされており、参加国等において内・外装工事や展示工事が実施されている。
- ※ なお、参加国が建設するパビリオンタイプAについても、すべて着工済みであり、建物が完成したパビリオンにおいて、順次展示工事等が進められている。



進捗状況等について

- 2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博） -



● 大工区の進捗状況

R 6. 11末現在

名 称	進捗率
大工区（PW3工区及びGW工区）	86%
PW北東工区(大屋根650m、Bパビリオン2棟、Cパビリオン1棟ほか)	92%
PW南東工区（大屋根740m、Bパビリオン1棟ほか）	83%
PW西工区（大屋根730m、Bパビリオン2棟、Cパビリオン3棟ほか）	95%
GW工区（屋外イベント広場、西ゲートほか）	75%
※大屋根リング(木造建築部分が完成 8/21)	100%

※進捗率は、「工事費用（出来高）／総工事費用」で算出。
ただし、大屋根リングは、「建て方着工長さ/リング長」で算出

● 個別の施設の進捗状況

	施設名称	進捗状況	工事着手
催事施設	大催事場	鉄骨建方完了、内外装工事中、外構工事中	R5.12
	小催事場	本体：帯屋根・内装工事、プレハブ棟：内装工事、外構工事中	R5.10
	迎賓館	本体工事：竣工→12/20引渡(予定)	R6.1
供給施設	電気供給施設	高圧地中幹線完了、各施設へ順次送電工事中	R5.6
	熱供給施設	熱源設備据付、配管・電気工事完了、試運転実施中	R5.3
土 木	基盤整備	基盤整備工事完了(R6.10)	R4.10
	静けさの森	植樹予定本数1,500本のうち約1,300本植樹済(1月完了予定)	R5.10

※石黒館、中島館は現物協賛

R 6. 11末現在

	施設名称	進捗状況	工事着手
テーマ館	宮田館	本体工事：竣工引渡済 展示工事中	R5.12
	※石黒館	10/17引渡完了	R5.9
	※中島館	本体工事：竣工→12/13引渡(予定)、付属工事：外構工事中	R5.10
	落合館	建設工事：膜工事中、外構工事中、B工事・展示工事中	R6.1
	福岡館	建築本体ほぼ完成、外構残、展示工事・内部造作工事中	R5.11
	河森館	12/20引渡(予定)、展示工事もほぼ終了込み	R6.1
	河瀬館	エントランス棟：外部木板張り及び内部天井地下地組立。対話シアター棟：内部床工事中。森の集会所：屋根の母屋・垂木・野地板工事中	R6.1
	小山館	本体工事：茅葺工事中 展示工事着工	R6.1

(参考) 会場建設費の執行状況

2024年11月末時点
(単位：億円)

執行項目	契約済			今後の予定		執行予定額
	金額	主な内容	前回比 (2024年8月末)	小計	主な内容	
大工区	1,160		+63			
PW北東工区	331	・大屋根（リング） ・パビリオンB、C ・管理施設、ゲート施設等の整備 ・メタン対策 ・附帯整備 (各種サイン・舗装・休憩所等)	+12	218	・会場安全対策等の軽微変更工事 ・会場附帯施設整備 ・空区画等利活用整備 ・メタン対策 ・施設等維持補修 ・リユース対応 ・会場基盤撤去工事 他	1,378
PW南東工区	277		+3			
PW西工区	322		+11			
GW工区	165		+22			
静けさの森工区等	30		+1			
会場附帯施設等整備	19		+14			
会場施設等維持補修業務	16		+0			
主要施設	278		+1			
大催事場	91	・各施設整備 ・サテライトスタジオ、休憩所等(20棟)	+0,6	17	・各施設の安全対策等の軽微変更工事 ・メタン対策 他	295
小催事場	47		0			
迎賓館	38		0			
テーマ館	53		0			
若手建築家施設	49		+0,4			
土木工区	110	・園路基盤整備、水道引込 ・雨水管、污水管、給水管、 熱供給管、電気管路、通信管路	+2	▲ 1	・水道分担金還付 他	109
インフラ設備 (電気・熱供給、通信、警備設備 等)	237	・電気(引込含)・熱供給・通信設備 ・水質改善設備 ・警備設備等	+4	20	・附帯設備整備 ・各工事工程に伴う変更対応 ・メタン対策 他	257
交通施設	154	・会場外駐車場等整備、付帯設備 ・桜島駅乗降場整備 ・万博アクセスルート整備	+6	25	・各施設の工事工程に伴う変更対応 ・維持補修、解体工事変更対応 ・メタン対策 他	179
環境評価、委託関係	58	・基本設計業務 ・環境影響評価業務 ・プロジェクトマネジメント、コストマネジメント業務	+0,2	6	・現契約案件の継続追加業務 他 (プロジェクトマネジメント、コストマネジメント等)	64
合計	1,997		+76	285		2,220
						予備費※ 130
					総 計	2,350

※「今後の予定」の支出の内訳については、現時点での計画額であり今後の執行過程において変更する場合があります。

※一部、内訳端数調整有

■2,350億円の執行率： 85.0%

※予備費執行となり得るのは「約87億円」。現時点の予備費執行は、隙間が約25億円のため「約62億円」の見込。